

第9回加古川市かわまちづくり協議会 会議録

日 時	令和7年12月22日（月） 午後3時 から 午後4時30分 まで
場 所	加古川市民交流ひろば 会議室2
出席者	加古川市 岡田市長（議長） 国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所 富本所長 加古川市町内会連合会 岡本会長 加古川商工会議所 山本会頭 大阪公立大学大学院農学研究科 武田准教授 加古川漁業協同組合 成川組合長 兵庫県東播磨県民局 木南副局長（オブザーバー・代理）
傍聴者	1人

■会議資料

- ・資料1-1 今年度のかわまちづくりスケジュール
- ・資料1-2 河川敷イベントの開催状況
- ・資料1-3 河川空間のオープン化資料
- ・資料1-4 かわまちづくりワークショップ『みんなでえがこう！加古川の未来壁画プロジェクト』について
- ・資料2-1 河川敷等の整備イメージ・工事進捗状況
- ・資料2-2 【国】整備スケジュール（案）
- ・資料2-3 賑わい交流拠点整備運営事業に伴う公共下水道工事
- ・資料2-4 賑わい交流拠点整備運営事業に伴う上水道工事
- ・資料3-1 【市】高水敷整備概要図
- ・資料3-2 高水敷遊具について

■会議要旨・質問・意見

1 今年度の取組について

➢ 事務局（市民協働部かわまちづくり推進担当参事）が資料1-1・1-2・1-3に基づき説明。

（質問・意見）

富本所長： 河川空間のオープン化後、令和10年4月の全体オープンまでに運営方法等について皆さんとともに作り上げていき、より良いものにしていきたいと考えている。

2 かわまちづくりワークショップ『みんなでえがこう！加古川の未来壁画プロジェクト』について

➢ 事務局（市民活動推進課）及びワークショップの講師である、おおうち氏、菅氏が資料1-4に基づき説明。

（質問・意見）

武田准教授： 感想として、実際に現地で絵を拝見し、非常に良い取組である。今回の開催場所以外にも、加古川市かわまちづくり地区周辺には、JR神戸線高架下や河川敷のJR神戸線橋脚、護岸など、ミューラルアートを描ける可能性のある場所（キャンバス）がたくさんある。今回の取組のように、土木構造物は人の手が加わると、ヒューマンスケールで自分のもののように感じられる良いきっかけとなるため、今回だけでなく、次年度以降も続けてほしい。今回、多くの方に参加いただいたと思うが、もっと多くの方が体験できるように継続して取り組んでいただきたい。今回の取組をきっかけに地域の美化活動に繋がることや、例えば加古川かわまち物語のような絵本を作成して物語性を持たせるなど、今後の展開にも期待できる。協働のまちづ

くり推進事業補助金を活用した河川敷イベント（以下、「河川敷イベント」という。）も含め、市民が実際に体験することで加古川市かわまちづくりの良さを知る機会が増え、その取組や理解が市民に広がってきていると実感している。一方で、共感や体験、知識、情報のコミュニケーションはデザインとセットであると考えるため、市のホームページを見ると、かわまちづくりの良さが十分に伝わっていないように感じる。冊子やチラシ、WEB媒体などを通じて、共感や体験、知識、情報のデザインがうまく組み合わさり、市民の方々も関わることで、より魅力が広がるのではないかと考える。

3 賑わい交流拠点の整備状況について

4 高水敷の整備状況について

- 次第3・4については、関連する内容であるため、まとめて報告した。
- 事務局（市民協働部かわまちづくり推進担当参事）が資料2-1・3-2に基づき説明。
- 国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所が資料2-2に基づき説明。
- 事務局（下水道課及び配水課）が資料2-3・2-4に基づき説明。
- 事務局（公園緑地課）が資料3-1に基づき説明。
- 遊具広場については、乳幼児向けの遊具を整備する案を想定していたが、賑わい交流拠点整備運営事業者（以下、「事業者」という。）から、河川敷には既製品の遊具を設置するのではなく、こども達が自然の中で、自由に考えながら遊べる環境を構築していきたいとの意見があつたことから、既製品の遊具は設置せず、手洗い場等の周辺環境を整備し、事業者が整備する賑わい交流拠点と連動するような、加古川市ならではの河川敷を整備することとした。

（質問・意見）

武田准教授：遊具広場の件については、事業者と同意見である。事業者からの提案は、賑わい交流拠点内に、土手のような風景で、こどもが自由に遊べる提案であったことを踏まえ、それと呼応する形で、河川敷においても統一的に整備する方がよいと思う。土手の斜面や石、木、を生かした遊びを誘発していく方向性でも良いのではないかと考える。賑わい交流拠点に設置する公共トイレについても、新設するタイミングであるため、例えば、手形でアートを描くなど、アートの関わり方を取り入れることも方法の一つである。河川敷のステージ兼芝生広場、舗装広場の使い方については、河川敷イベントの主催者から意見を聞き、どのような使い分けが良いかを検討しながら進めていただきたい。ステージから続く園路については、ランドスケープデザインの観点から空間を規定する軸となるため、軸線の先に何が見えるかが重要だと考える。園路からJR神戸線の橋脚部分が綺麗に見えるように軸線を引くことは、河川敷全体の空間を規定する上で非常に重要なと考える。ベンチやシェルターについても、あまり目立ちすぎず、河川敷らしいおおらかな風景に馴染むデザインや素材を選ぶことが良いと考える。

事務局：河川敷の設計にあたり、河川敷イベントの主催者にもヒアリングを行い、意見をいただいている。河川敷は河川区域内であることから、常設のステージを設置することはできないため、仮設のステージを設置できるように舗装広場を整備することとしている。園路については、こどもやベビーカー、車椅子の方が安心して動けるように、またイベント開催の一助となるように、設計している。ベンチやシェルターのデザインについては、担当課と協議しながら進めていきたいと考えている。（山野かわまちづくり推進担当参事）

木南副局長：かわまちづくりについて、本日の協議会に出席するまでは、かわまちづくりとは、人と川の切れてしまった関係を取り戻そうとする取り組みであると考えていた。事務局等の報告をお聞きして、ハード整備も大切であるが、市民が加古川に気軽にアプローチできるように、人と川を近づける仕掛けのようなものが大切ではないかと考える。現状、堤防上の交通量が非常に多く信号も少ないのでなかなか難しいとは思うが、JR加古川駅やニッケパークタウンからの動線を市民に分かりやすく整備

するなど、加古川への動線づくりをかわまちづくりの中で仕込んでいくことが大切であると考える。

事務局 : かわまちづくりの取組を開始するにあたり、加古川という名を冠する本市において加古川そのものが持つ魅力を十分に生かしきれていない現状を逆手にとり、寧ろ伸びしろと考え、国土交通省が取り組む「かわまちづくり支援制度」を活用して取組を開始した。

かわまちづくりの取組により、本市独自の魅力を引き出し、川をもっと身近に感じてもらうための取組を進め、加古川を生活の一部、楽しみの一部、賑わいと憩いの場として、市民にとってより親しみやすい存在とすることを目指している。市民に加古川を身近に感じていただくためのアプローチを模索する中で、加古川を実感してもらうことが重要だと考え、ソフト面では令和3年度から市民団体が主体となった河川敷イベント等の河川敷を活用した賑わいづくりに取り組んできた。また、一級河川加古川は広大な流域を有しており、築堤型の堤防の先に川があることで街と川が分断され日常から切り離された場所のようになっているために、昇降階段やスロープ等のハード整備を進め、市民が川に近づきやすくすることで街と川との連携が生まれることを期待している。また、かわまちづくり計画のコンセプトとして、「駅からの回遊性を生み出す新しい日常空間の創造」を掲げており、駅からの動線についても関係部局と連携して検討しながら取り組んでいる。駅からの動線づくりは大切であると考えており、動線は複数あることが望ましいと考えている。加古川を一つの目的地として訪れていただけるように、加古川駅周辺のまちづくりと連携しながら、駅の南北において複数のルートや仕掛けについて検討していきたいと考えている。

河川敷の整備については、加古川が市民から身近な存在、市民の誇りとなるような場所となるように、府内においても担当部署間で横断的に取り組み、関係各所の協力をいただきながら進めていきたいと考えている。

岡田市長 : 水辺の使い方については、重要な課題であると認識しているため、水辺に近づけるような整備や工夫を行い、こどもの頃から川に親しんだ体験ができるように今後とも進めていきたいと考えている。駅から河川敷へのアクセスについても、大きな課題であると認識しており、現在進めている加古川駅周辺の再整備や加古川駅北側の区画1号線の美装化工事を引き続き進めるほか、商店街やニッケパークタウンさんなど地域の皆さんに協力をいただきながら進めていきたいと考えている。

成川組合長 : 現在、整備が進められている神吉中津線が完成すれば、地元の方々が自動車で多く通ることが想定される。加古川バイパスだけでなく、神吉中津線を走る車両からも、河川敷が賑わっていれば、河川敷に訪れたくなるのではないかと考える。今後もさまざまな課題があると考えられるが、加古川河川敷を環境学習や安心して水辺と触れ合える場所として整備していただきたいと考える。

5 その他 (質問・意見) 意見なし

以上